

2024 年度 名古屋芸術大学 入学試験問題  
総合型選抜「B 方式・C 方式 1 期」

## 入試問題

試験科目：「小論文」

日 程：2023 年 10 月 21 日 (土)

試験時間：50 分 / 解答字数：800 字程度

教育学部 子ども学科

対象コース： 全コース

### 【課題】

学校教育における 1 人 1 台端末の普及、家庭内での幼児期からのスマートフォンの利用が進む中、外遊びや読書に親しむ時間が減少していると言われていています。ICT の普及が教育・保育の中でも今後大いに進むと考えられます。一方で子どもたちの心身の発達において、外遊びや読書も大切と言われていています。今、そしてこれからを生きる子どもたちに、ICT と、外遊びや読書等の活動とのバランスのよい利用が大事と考えられます。双方を「バランスよく利用する」ことができるように、教育・保育の現場でどのように子どもたちに指導・支援していくとよいかについて、800 字程度で書きなさい。

### 【出題の意図等】 ※問題用紙には記載されません。

(回答例)

ICT は、情報検索において大変便利です。例えば、小学生なら、国語での辞書機能、社会科での地理・歴史情報、図画工作での作品イメージの参考などで活用できます。また、手軽に持ち運べるタブレットでは、必要な時に写真や動画の機能を活用して、学習活動に活かすこともできます。遠距離の人と繋がってお話を聞くこともできます。幼児であれば、動植物などの自然に関わる生態などの様子を写真や動画等で、早く詳しく確認できます。この点で、ICT の活用は今後一層進んでいくと考えられます。また、ゲーム機能や多様なアプリケーション、YouTube 等の映像機能で余暇を楽しむことでの利用も一層進化してきています。ICT の利点を理解して、発達に応じて活用したり、楽しんだりしていく生活が益々広がることでしょう。

一方で、ICT の利用の仕方を誤ると有害になります。近年、SNS を悪用しての仲間外しや悪口、悪ふざけ動画の投稿が問題になっています。この点で情報リテラシーをしっかりと学ばせて、他人の迷惑や傷つける結果にならないように活用することを繰り返し伝えていくことも必要です。

さらに、ICT の活用に夢中になり過ぎると、画面に集中することになることでの視力の低下、室内で座って使用していくことになるために運動不足も心配されます。この点で言えば、家庭でも話し合ってもらいように勧めて、使用時間を制限していくことも必要になるでしょう。

他方で、制限をかけるだけでは、「何をしてよいか分からない」子どもが出ることも予測されます。そのためにも、体育活動等の時間で積極的に外遊びや運動スポーツの面白さが楽しめるようなことを取り入れたり、絵本などの読み聞かせ、図書室の積極的な活用などで本の面白さを体験できるような取り組みを入れたりしていくことも大切です。また、ICT ではとにかく個人作業的になりがちなので、クラス集団で取り組める楽しい活動などを積極的に取り入れることも大切です。(792 文字)